仏さま（ほとけ）

■楽曲データ

歌詞：山田静　作詞

楽曲：小松耕輔　作曲

発表：仏教音楽協会　1931年

初演：―

初出：『佛教聖歌　第四回發表』　佛教音樂協會　1932年

管理番号：M1372

■創作の経緯

仏教音楽協会より児童用の「仏教聖歌」として発表（第４回）。歌詞は第６回歌詞募集により1931年５月に募集、同年12月当選作として発表されたもの。

■校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第２巻、『聖歌・讃歌集　こども編』第１巻収録

底資料：『佛教聖歌　第四回發表』　佛教音樂協會　1932年

比較資料：『佛教聖歌　縮刷第一輯』　佛教音樂協會　1938年

校訂の詳細：特になし

■解説

テレビアニメの主題歌やＣＭソングなど、次々と新しいメロディが生まれる今日、子どもたちの流行もめまぐるしく変わっていきます。新鮮なリズムやメロディも魅力的ですが、一方で、昔から歌い継がれてきた作品には独特の味わい深さがあるものです。仏教讃歌《仏さま》は、発表から約80年の歳月が経過した現在においても、色あせていない曲です。みんなで歌う歌のレパートリーに、ぜひ加えていただきたいと思います。

◆楽曲について

作曲者の小松耕輔（1884～1966）は、弟の平五郎、清とともに、作曲家として活躍した人物です。東京音楽学校（現・東京芸術大学）を卒業し、童謡の創作、合唱活動の推進など、多岐にわたる音楽活動を行いました。《仏さま》の他にも、《涅槃会の歌》、《迷いの鳥》など、仏教讃歌を数多く手がけています。

歌詞に描かれるのは、いつもゆったりと微笑みを浮かべる仏さまのお姿。温かく大きなその存在を前にすれば、何の心配事もなく両親から守られていた幼い頃のような、深い安心感に包まれます。子どもの視点で書かれていますが、ど

のような自分であってもそのまま受け入れてもらえることのありがたさは、大人として大切な存在を守る立場となった時などにもまた、改めて感じることができるのではないでしょうか。そういった意味でも、永く大切にしていきたい仏教讃歌です。

◆演奏のヒント

歌い出しの音量は、ピアノ（弱く）と指定されています。仏さまにそっと呼びかけるように歌ってみてください。私たちの大切な仏さまのお名前ですから、小さな声であっても明るいトーンで、親しみを込めて歌えるとよいですね。

11小節目の２拍目、シ♭は、この曲のなかでは少し意外性のある音です。子どもたちが歌いにくそうな様子であれば、先生も一緒に歌ってあげるなど、工夫してみてください。また、最後の２小節には rit.（だんだんゆっくり）という指示があります。１番と２番ではあまり遅くしすぎず、３番はしっかりと仏さまのお名前をお呼びして歌い終わりましょう。

◆楽譜・音源について

音源は、CD『ののさまといっしょ　ほとけのこどものうた』に収録されています。

解説執筆：田村菜々子（浄土真宗本願寺派総合研究所研究助手）

※本解説は、「仏教讃歌」No. 81（保育連盟機関誌『月刊保育資料　まことの保育』第 685 号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.